

## 編集後記

各学会で専門医・認定医の試験が施行されている。paper test を採用している学会が多いが、この問題作成には常に悩まされる。比較的妥当な問題を作成するとなると、医師国家試験問題と同じ様なものになってしまい、確かに国家試験の問題は良くできているものが多いと感じさせられる。

専門医クラスの試験では、学会で議論されているような問題を出すことも良いが、認定医クラスになると基本的な事柄を重視しなければならない。さりとて、学会の認定医試験であるからそれ相応の問題でなければならず、問題作成委員会へ提出するぎりぎりまで悩むことになる。提出された問題を委員会で長い時間をかけて徹底的に議論する。この際に、自分が使用していた用語が不適切であったり、曖昧な使い方をしていることを認識させられることも少なくない。内科と合同の試験委員会などでは、委員の専門分野といえども正答できない問題が示されることがあり、あとで慌てて勉強することになる。内科側も術式などはこっそり聞いて来るのでお互い様なのであろう。

十分な推敲がされた試験問題でも時に思いもよらないミスがある。しっかり準備してきた受験生に申し訳ないことであるが、問題作成の最終段階で何回もチェックしていてもすり抜けてしまうのである。

しかし作る側の苦労は受験する側に比べれば小さいものであろう。大学受験の事を夢にみなくなったのはそんなに昔の事ではないのである。

(跡見 裕)